

令和元年度第1回刈谷市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和2年1月30日（木）午後1時30分～午後2時40分

2 場 所

刈谷市役所 701会議室

3 議 題

- (1) 刈谷市総合教育会議について
- (2) 教育大綱の各種施策の実施状況について
- (3) 意見交換 テーマ「教育大綱に求めること」

4 出 席 者

市 長	稲垣 武
教育委員会 教育長	金原 宏
教育委員会 委員（教育長職務代理者）	池田 裕幸
教育委員会 委員	石田 芳加
教育委員会 委員	鶴田 英孝
教育委員会 委員	浅井 優

5 欠 席 者

なし

6 会議構成員以外の出席者及び事務局

教育部長	長谷川 文成
教育総務課長	加藤 直樹
教育総務課 総務係長	神谷 友理
学校教育課長	木野 昌孝
学校教育課 課長補佐兼特別支援教育係長	加藤 重行
生涯学習課長	鷹羽 和久
スポーツ課長	加藤 幹雄
企画調整監兼企画政策課長	近藤 和弘
企画政策課 課長補佐兼政策推進係長	平野 元章
企画政策課 経営管理係長	見田 裕子
主事（書記）	中野 裕貴

7 傍 聴 人

0名

1 市長あいさつ

刈谷市長 稲垣 武

刈谷市総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。

今年の展望は2つありまして、1つはオリンピック・パラリンピックであります。4月7日には聖火ランナーが豊田自動織機の前から歴史博物館までの区間を走ります。ぜひ沿道にお集まりいただき、応援し、盛り上げていただければと思います。また、刈谷市は企業スポーツが盛んでありまして、その中から今後日本代表に選出される方もみえると思いますので、刈谷市にゆかりのある選手を市として応援していければと思います。

さて、1週間くらい前のことですが、カナダ女子バスケットボールチームのオリンピックに向けたキャンプ地が刈谷市に決定しました。私もカナダに赴き、7月中旬から来ていただけるという覚書を締結させていただきました。私の公約に「小中学生に、優れた一流のスポーツ選手と触れ合い、交流する機会を提供したい」というものがありまして、カナダチームとの交流もぜひ実現できればと思います。カナダチームの出場可否は2月上旬に決定しますので、出場が決まり次第、細かい調整をしたいと思います。カナダに行った際のことですが、バスケットボールのトロント・ラプターズとワシントン・ウィザーズの試合を観戦しました。ワシントン・ウィザーズには八村塁選手がいます。運よく通路でお会いすることができ、握手をすることができましたが、非常に背が高く、またカナダバスケット協会の会長さんもちょうど背が高く、私も背は高い方なのですが、常に見上げてお話をさせていただきました。

3月にオープンした歴史博物館では「刈谷の近代化と豊田佐吉・喜一郎 一準備は出来たカリヤは邁進しますー」という企画展を開催しております。そこでは刈谷駅の設置がきっかけとなり、トヨタ系企業が刈谷市で事業をはじめた歴史が解説されております。そういったことも歴史を学んでいただく上ではとても有意義であると思います。

本日は私と金原教育長に関しては就任後初めての総合教育会議となります。本会議を通じて今後も教育委員会との密接な連携のもとに対応していきたいと考えております。皆様のご理解とご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます、私のあいさつとさせていただきます。

2 議 題

(1) 刈谷市総合教育会議について

- ・資料1により説明

(2) 教育大綱の各種施策の実施状況について

- ・資料2により説明

<質疑応答>

池田委員

実施状況については非常によくまとめられていると感じました。これは現場の先生方がまとめたものなのでしょうか。

学校教育課長

文章を作成したのは学校教育課の指導主事です。教育長の意向もあり、どのような取り組

を現場が実施しているかについて、より具体的に伝えられるものにしたいということで作成しました。作成にあたって不明な点等があった場合は、その分野の担当校長、例えば美化の担当校長、生徒会の担当校長等がいますので、そこに確認をとりながらまとめたものであります。

金原教育長

校長会でも配付し、そこで意見をいただき、修正を加えていることを補足します。

(3) 意見交換 テーマ「教育大綱に求めること」

＜以下各委員等意見要約＞

池田委員

まずはじめに、こちらの教育大綱をまとめる際、私自身も携わっていたため、当時を思い起こしていましたが、法律が整備され、総合教育会議が開催されるなど、教育委員会と市長のベクトルを合わせていくことが、以前よりもできていると感じました。そうでない市町もあると、報道の範囲内で聞くこともありますが、刈谷市はしっかりと対応していただきありがたいです。憲法や様々な法律に基づいて我々教育委員の立場もあるわけで、それに則り、今後でもできる限りのことをしていきたいと思います。ご説明いただいた教育大綱のまとめ、課題についてもわかりやすくよいと思います。あえて欲を言わせていただくならば、課題の重みづけをして、次に生かしていけるような提案を検討していただきたい。例えば徳のところで、学校に何らかの理由で入れない子がいることはもちろん知っていますが、学校に入って、先生方と触れ合ってはじめて達成できるものがあります。それができない子は結果的には増加傾向にあると思います。刈谷の数値は把握していませんが、そういった子がいることへの課題を挙げていただいている中で、重みづけとして、私はその点が重要ではないかと感じます。また自動車業界が100年に一度の大変革期を迎えていると耳にたこができるくらい聞いています。日頃は目の前のことばかりしており、自分事ではないような気もしますが、同じように教育も同じく大きな変革期を迎えていると思います。先生たちもしっかりやっていますが、我々もそういった目でみて、何か見出したいと感じました。さらに皆様と目指すものを具体化していければと思います。

石田委員

刈谷市の教育は全体的に落ち着いていると思いますが、そうでない面もあるでしょう。そういった中で安心・安全な学校生活が送れているのは先生方や地域の支え、努力があってこそと、感謝しています。私たちは夏前と秋頃に学校訪問を行っています。実際に教育現場を拝見し、先生方や子どもたちの様子を見ることで、安心することもできましたし、直接お話をすることで「そのような悩みや意見があるのですね」と新たな発見をすることもできるわけです。先ほどご説明いただいた教育大綱についても、そういった際の参考にしていきたいと思います。

さて学校訪問時、私はクラスで子どもたちと給食を食べたいと希望しています。なるべく

新人の先生のクラスに伺い、先生の様子や授業時とは違う子供の様子を見たいと考えているからです。そこでいただいた率直な意見や感じたことは、これまでの定例教育委員会においても伝えてまいりました。先日の小中学校の理科学研究発表会や生徒会サミットでも感じたことですが、大人になると経験済であるため、結果を決めつけてしまう傾向があるなど感じます。一方子どもたちは、純粋で壮大な視野を持っており本当に感動します。ぜひそこを見落とさないようにしていただきたいです。ある保護者から伺った話なのですが、成績が伴わない子の振り返り活動を丁寧に行った結果、苦手意識が克服されたそうです。振り返り活動を継続的に行うことが、その子の達成感、さらには自己肯定感にもつながったわけです。先生方には、子どもたちに十分なふりかえり活動の時間があるかを確認していただきたいです。私自身も苦手な教科が多かったのですが、先生からその教科について興味を引くような、おもしろい言葉かけをしていただくと、やはりその教科に興味が湧きました。心に響く言葉選びや、問いかけをしていただくと、自然と興味が湧いてくるものです。心が揺さぶられることは大切だと思います。今後、子供たちがしっかり自分の足で立ち、生きていくことを前向きに考えられる、刈谷市の子どもたちの夢と希望を叶えられるような環境づくりを目指し、皆様とともによりよい企画を考えていきたいと思っています。

鶴田委員

現行の教育大綱はよく考えられているというのが正直な感想です。育てたい子ども像が明確であり、大変わかりやすく、納得しやすいものになっている。学校訪問をしても、先生方が意識しているのかはわからないのですが、教育大綱に則った指導をしていただいていると感じました。学力向上は大切なことですが、それ以上に豊かな心を育むことが大切です。先生方は気づきを大切にする教材や、子ども同士で学びあう仕掛けをかなり考えていただいている。子どもたちが自信を持ち、主体的な活動ができるよう意識していただいている。また他人の思いを導いていると思います。大人でも自己肯定感を持つことは大変なことです。子どもたちがまず自分のことを好きになり、肯定的に捉えるためには、人に必要とされている、安心して見守ってもらえているという環境を作ることが大切だと思います。先生方は日々それを意識していると思われます。ぜひ教育大綱の今後の展望にこういった要素を組み込んでいただきたいです。教育大綱は基本的に素晴らしいですが、あえて付け加えるならこの5年間で変わったこと、例えばプログラミング教育、道徳教育等に関することが挙げられます。先生方は先行していますが、こういうことを教育大綱に加えていくことがよいのではないのでしょうか。また、知・徳・体は学校教育に特化していますが、青少年育成、スポーツにも共通した考えでもあると思います。文化施設やスポーツ施設の稼働状況や利用状況はどの施設も素晴らしいものです。利用度の高さ、大人の市民の自分への投資に対する意識の高さを感じます。子どもと一緒に大人も成長できるまちになればと思うので、徳にその要素が入ってもよいと思います。もちろん他の計画と重複する可能性もあるため、あくまで私からのご提案です。

浅井委員

昨年10月に教育委員を拝命しました。小中学生の子どもを持つ親として、刈谷市の教育行政に微力ながら関わらせていただきます。よろしくお願いします。さて先日、娘の中学校からネックウォーマーの使用を許可する旨の手紙が届きました。聞けば生活委員会が要望を出し、全校生徒への意見徴収を行い、先生方の会議を経て、一旦のところは今年度までの限定措置ではありますが、使用許可となったそうです。その話を聞いて、先生と生徒双方の対応に感心するとともに、自身の学生時代を思い出しました。高校生の頃、冬場のセーラー服の襟元が寒いので、校則で認められていないマフラー使用を認めてもらうため、同級生が署名活動を始め、私も署名しました。後日、その同級生に事の成り行きを聞いたところ、多数の署名を携えて先生のところに行くも、生徒手帳の校則が記載されているページを見せられ「本校に入学した時点で校則を守る前提となっているため、校則にないことを起こすことは退学を意味するぞ」と指摘されたそうです。マフラーの必要性や安全性について議論することなく、校則と退学の二言を盾に署名活動は封じられ、終結を迎えました。25年近く前の話ですが何ともしよっぱい思い出です。昨今耳にする「一億総活躍社会」、「労働力のAI化」、「働き方改革」等々のキャッチーな言葉や「もはや終身雇用は保証できない」という日本をけん引する企業トップの言葉等から、様々なことが目まぐるしく変化しており、伴って幸せに対する個人の価値観も変わらざるを得ないように感じます。一億総中流で一丸となって同レベルの幸せを求めていた時代ではなく、格差社会というフレーズが飛び交う中で、各々の幸せを見つけなければならず、そのような世の中に、今の子どもたちは成長して飛び込んでいかなければなりません。親としましては、多様に変化の激しいこの世の中を、子ども自身が感じる幸せを携え、健やかに生き抜いてほしいと願うばかりです。そのような時に、我々大人ができることは何だろうと考えてみると、私は、子どもの「何のために」の思考を大切にしたいと思います。前時代の大人が、前例や昔からの固定概念にとらわれて、当たり前と思い込んでいることを、子どもが改めて「何のためにそれをやるの」と意味や目的を多角的に捉え、疑問を理論づけることで、新たな多種多様な思考を促し、結果、新時代の多様なパーソナリティや、多様な世の中を受け入れることへのきっかけとなるのではないのでしょうか。ですので、大人が前例やルールだけを盾に子どもの「何のために」の思考を止めることはせず、真摯に向き合い、手段と目的を混同せずに理論づけて説明をする必要があると思います。もし理論的に説明できなければ、そのルールや方法を見直し検討することも、これからの世の中の多様性に対応する第一歩ではないのでしょうか。ネックウォーマーと同様、マフラーの必要性や安全性についてもじっくり話し合っただけで済んだものです。一方で子どもの「何のために」と向き合い、時間をかけて思考を醸成するやりとりは大人なりに学ばないといけないと思います。働き方改革が叫ばれている今、なかなかこの余裕を作ることは難しいかもしれません。しかし多様な世の中を作ってきた大人の責任として、この多様な世の中を生き抜いていけるよう、子どもと向き合う義務があります。大人が子どもに向き合う余裕を作るために、最初は各々痛みを伴うかもしれませんが、具体的かつ早急に対応することも必要ではないのでしょうか。最後になりますが、今母校の正門の前を通ると冬場マフラーを巻いた生徒を目にします。時代はちゃんと変わっています。

金原教育長

浅井さんの話を伺って、子ども達と一緒に先生たちが考えていくことができる学校ができていると感じ嬉しく思いました。私が退職したのは4年前、教育大綱ができたタイミングと同時期ですので、現職の時には教育大綱はありませんでした。教育長として教育現場に戻り学校訪問をすると4年間でだいぶ変わったんだなと思われました。そこで、せっかく教育大綱についてまとめるならば、この4年間の変化がどのくらい充実しているのかを数字でもわかるものにしたいと思い、資料2のとおりまとめさせていただいた。本当にいろいろな方のご意見をいただきまとめたものが本資料であり、まだまだ足りない部分もございますが「刈谷の子どもたちにこういう教育をしてきたんだ」という振り返りの資料にしたいと思っています。また、教育大綱の期間はもう1年あるので今後もやれることをやっていきたいと考えています。

教育大綱について、まずは知ですが、刈谷市が単独で実施している少人数非常勤36人、A L T支援員は小学校の英語教育開始に向けて昨年2人増員していただき、親御さんは大変喜んでいます。特別支援の介助支援員も手厚くしていただき、また特別支援学校も開校したことで肢体不自由の子どもたちの負担を軽減していただいています。先日、文部科学省と厚生労働省及び全国肢体不自由養護学校長会の会長が東京から刈谷へ視察にお見えになりました。その際、特別支援学校に刈谷豊田総合病院との連携により医療スタッフが6名常駐しているのを知り、「全国のモデルは刈谷にあり、答えは刈谷にあった」と感心していただきました。他の学校では看護師を自分で募集しなければならない状況がありますが、刈谷の場合は病院側がすぐにスタッフを補充してくれる、こんなすばらしい所はないとお褒めいただきました。特別支援学校ができたことで、通常の小中学校の特別支援学級についても特別支援学校の先生が指導に行くので、授業力向上につながっていると思います。

徳について、命を大切にするという言葉がありますが、各学校の子どもたちがいじめ防止活動をしており、その成果を生徒会サミットで発表しています。そこで聞いた内容を各学校へ持ち帰り、次の活動に生かしてもらっています。小学校ではありがとうがあふれる学校づくりを目指しており、それをキーワードに自己有用感を育てています。また子どもに任せるということも大切であると考えており、30年前に刈谷東中学校から始まったノーチャイムは、全中学校に広がって15年になります。ノーチャイムで生活することで、自分を律する心を育てているわけです。

体は、私がまさしくやりたいと思っていることです。実業団の一流選手が子ども達の前で一流のプレーを披露してくれる、芸術面ではチェーンソーで木を削り芸術作品を眼前で製作してくれるなど、子どもたちの感性を高める体験は非常に心に残る。ぜひとも実施していきたいです。

環について、教育環境はともしっかりやっていただいています。空調が整って子どもの集中力は非常に向上しました。視察にきたソニー教育財団の方々にも「子どもたちの集中力がすごい」とお褒めいただきました。青少年の面では総合文化センターで実施しているなごみんはあとはよい取組であると思っています。

これからの課題はI C T、情報教育の急加速化が挙げられます。しかし、そればかりをや

っていては子どもがコンピュータとばかりとかかわることになります。それも非常に大切なことではありますが、人とのかかわりを大切にしていきたいと考えています。世に出て人と接していくのが大切であり、バランスを大切にしていきたいと思います。

刈谷市長

現行の教育大綱について、概ね良いものであるという意見をいただきました。ありがとうございます。一方で私の信条として、諸行無常と思っており、物事は変化するもの、常々考えていかねばならないものであると思っています。私には小学6年生の孫がいますが、「君たちはどう生きるか」という本をマンガ化したものをたまたま持っていたため、借りて読んでみました。昭和初期の作品ですが、それを通して、やはり当時からいじめという問題は存在していたんだと実感しました。

さて名古屋市で部活動の民間委託が始まりました。働き方改革の一環であることはわかっていますが、様々な課題がある中で、少し心配するのが、先生が子どもたちを朝から晩までみていたのが今後その時間は限られ、それによって得られるもの、失うものがあるということです。先生方もサラリーマンであり、土日部活では生活やご自身の子育てにも支障があったでしょう。変わっていくという意味では名古屋市の事例はまさにそうだと感じます。またICTについて、スティーブ・ジョブズは息子にスマホを使わせなかったそうです。理由は脳が疲れるからであり、やはり本来は紙の方がよいということを思っていたのかもしれない。また、これは想像の話ではあるのですが、先日カナダのミササガ市へ行った際、街は－17℃で出歩く人はいません。役所にも立ち寄りましたが、そもそも市民課に類する課がないのです。知り合いに話を聞いてみたところ「行く用がない」とのことで、おそらくICTを活用した様々なサービスがあるからなのだろうと思いました。教育については教育長先生はじめ皆様にご意見を頂き、相談しながら進めていきたいと考えています。刈谷で義務教育を受けさせたいと親御さんに思ってもらえるような、そんな教育大綱にしていきたいと思います。